

# 品人 店技

ファイル 72  
取材日 H25.12.16

## 久米工務店

所在地：横手市朝倉町7-50  
TEL0182-32-5987 FAX0182-32-6548  
【創業】昭和54年5月  
【定休日】日曜日  
【事業内容】一般建築



プロフィール  
くめ しげお  
**久米 繁雄**  
役職名：代表者  
生年月日：昭和22年11月30日  
趣味：ゴルフ、登山、音楽鑑賞  
出身地：仙南村



今回は朝倉町の久米工務店さんを訪問。代表の久米さんは毎年、梵天コンクールで上位に入賞される「朝倉旋」の総轄責任者。工務店の仕事も、町内会の活動も、久米さんの人柄と面倒見のよさが感じ取れるインタビューとなりました。

まもなく梵天の時期がきますね。準備はいつから始めるんですか。

12月上旬から始めてますね。1月からはほぼ毎日集まって本番直前まで13人ほどで作業しています。大体2時間作ってその後飲み会をします。もしかしたら、飲んでる時間の方が長いかもね。(笑)

若い人もいますか。

いますよ。息子も参加してるし。伝統文化を守るっていう大げさだけど、楽しみながら一緒にやっていると次第に若い人たちが集まってくるよ。私は20年間梵天の責任者を務めてきたけど今は第一線からは引いて「総轄責任者」になっています。もともと総轄責任者って役は無いですけど、顧問職みたいな感じで任命されて。記念に制札まで作ってくれたよ。(笑)



▲制札

素敵なお仲間ですね。ところで今年の製作テーマはなんですか。

うちの町内会では干支をテーマにして作ってます。今回は「ウマ」ですね。躍動感を表現するために動きのあるものをいつも作っています。

みんなそれぞれ得意分野があって、顔を作る人や胴体を作る人、小物をつくる人がいて。最後に組み合わせるんですよ。以前、全体のバランスが悪くて人形を半分に分けて胴を詰めたこともあったね(笑)

荒技ですね。(笑) 梵天づくりで一番注意していることはなんですか。

そうですね。でも工具や機械も進歩してきたでしょうから、この業界の敷居も昔に比べて低くなってきたんじゃないですか。

そうですね。いまではカンナの刃の研ぎ方なんて教えることも無くなりましたし、まあ元気なうちは技術を伝えて後進を育てていきたいですね。

地道に教えてくれる人がいるって大事ですよ。続いて久米さんの趣味についてお聞きしたいんですが。

趣味は、いっぱいありますよ。まずは、登山ですね。今年は7月に北海道の大雪山系を縦走してきましたよ。横手市の山岳協会に入っていて、年一回の楽しみですね。まだ雪が残ってたけど、花盛りで最高に良かったですよ。もともと町内に「山の会」というのがあって、今でも月に1回日帰り登山をしています。仲間誘われて遠くまで足を伸ばすようになりましてね。

あとは、オーディオですね。(実は、事務室の立派なオーディオが気になっていたスタッフ。しかも隣の部屋には別のオーディオセットが並んでいました！)

コンクルールの審査基準は、着想、美点、技術、総合の4つあって、総合は全体のバランスや、一人で持てるかという点が審査されるので、いかに軽い素材でつくるかを手として注意していますね。



▲梵天の製作風景

なるほど。見た目ではわからないポイントですね。梵天づくりの醍醐味はなんですか。

やっぱり「特選」をとったときですね。コンクルールから翌日の神社の鳥居までの短い間しかお披露目でき



▲レコードをかけてもらいました

すごいですね。これで何を聴いているんですか。

大抵はレコードですね。あとはライブDVDとかかな。ほとんど毎晩何か聴いていますね。この高気密の内壁のおかげで音漏れもあんまりしないしね(笑)

(音を聴いたスタッフ、「違う!」と一言。音の厚みに感動しました。)

最後に今後の抱負を教えてください。

町の便利屋さんみたいに、些細なことでも気軽に声を掛けられる工務店になりたいですね。これからもっと高齢化も進んでくるだろうし、お年寄りに頼りにされる工務店を目指したいですね。

梵天でも仕事でも、若者の育成に力を注ぎ、同時に慕われる久米さんの横顔が垣間見られる取材でした。

ないけど、特選を目指して仲間と一緒に作る過程が楽しいですね。

そういえば、4月に台湾に梵天を持って行ってきました。「台日鼓舞節」という日本と台湾の交流イベントに、横手からは5つの町内会の梵天が参加し、東北各地のお祭りと一緒に盛り上げてきました。そのときの頭飾りは、台湾に置いてきました。

横手の梵天が世界へ、すごいですね。今後も楽しみにしています。



続いて、お仕事についてお伺いします。

創業は昭和54年です。それまで勤めていた工務店が土木の仕事が増えてきて、私は大工の仕事がしたかったので独立をしました。

工務店はそれぞれ特徴がありテーマを持って仕事をしているんですが、うちの売りは高気密・高断熱の建築法ですね。自社の事務所もこの製法による裏張りを施しています。

息子さんも一緒に仕事をされていらんですよね。

私からはあれこれ言っていないんですけどね。建築の勉強をして戻ってきてくれました。

心強いですね。

一昔前は、大工は子どもたちが将来になりたい職業の上位になっていたんですけどね。この業界は後継ぎがいなくて一代で閉めてしまうところが多く残念です。このあいだ大規模建築に携わったんですが、集まったのはいわゆる一人親方の人たちが多かったです。

若い人たちを育てなくて、と強く思いますね。この職業が廃れてしまふんじゃないかとも思います。幸い、うちには若い人がいますが、この業界は冬場に仕事が少ないから若い人を継続雇用して育てていくのが出来ない、つらい現状ですね。